

環境月報

*Environmental Activity
Monthly Report 1.May*

5
'11 May.1-31



サンシングループ

サンシングループ環境方針



環境理念

サンシングループは、商社・開発技術・要素技術 これら3つの機能のシナジー効果を追求し、継続的な製品供給とRoHS対応製品の開発など地球環境にやさしい先進技術を通し、電機業界および社会へ貢献して参ります。とくに、地球環境保全のための諸活動を重要なCSRと認識し、継続企業としての責務を果たしつつ、将来にわたり地球環境の保全に貢献して参ります。

環境方針

1. 事業活動において、省資源化、廃棄物質の削減、環境関連物質の管理を徹底し、環境の維持・改善および環境汚染の予防をはかって参ります。
2. 環境に係る法規制およびその他の要求事項に関して、コンプライアンスを徹底して遂行し、環境保全に貢献して参ります。
3. 各々のグループ会社および事業部において、事業活動に応じた具体的な目的・目標を設定し、数値により管理できる判りやすい環境管理システムを構築・運営して参ります。
4. 環境管理システムは、定期的な内部監査・マネジメントレビューをおこない、実態に沿った具体的な継続改善をはかって参ります。
5. この方針は文書化し、当グループのステークホルダーに対して開示をおこない、当グループの諸活動に関わるすべての人々によって一步一步、着実に具現化して参ります。

平成19年8月24日
サンシングループ
代表 石井宏宗

石井宏宗

今月のグループ代表の一言

今月のグループ代表の一言



福島第一原発の事故が終息しない。それどころか、
混迷を極めている。この政府(保安院含む)・御用学者・
東電・福島県による史上最悪の人災事故は、環境汚染の
側面からみても天文学的なものとなろう。

いままで放出された放射能は「テラ・ベクレル」であり、
私はテラという単位を宇宙科学以外でまともに聞いたのは
初めてであった。
水素爆発により帯状に土壌が汚染され、北は仙台、南は
神奈川まで放射能が残留している。これらは土に染み
込む前に除染しなくてはならない。高濃度に汚染された
水はそのまま海へと放出され、低濃度といわれている
(疑わしい)汚染水も大量放出され国際問題に発展して
いる。

しかし現在も放射能は漏洩し続け、政府も土壌の除染を
しようとしていない(海はやっとゼオライトを使用しはじめ
たが、あまりにアクションが遅すぎる。後の祭りである)。
土壌汚染の除染は人海戦術で出来るはずなのであるが、
政府は「ただちに問題ない」「たいしたレベルじゃない」と
大本営発表を繰り返し、早急な土壌除染はおこなわれ
ない。

環境問題が叫ばれ、我々民間企業と市民が草の根
レベルで、コツコツと築いてきたエコ・ムーブメント。
その大前提が政府(保安院含む)・御用学者・東電・
福島県の傲慢により、すべて失われてしまった。

SANSHIN GROUP
代表 石井宏宗

5月号 INDEX

5月号 INDEX



PAGE 1 ……今月の表紙

PAGE 2 ……サンシングループ環境方針

PAGE 3 ……今月のグループ代表の一言

PAGE 4 ……INDEX

PAGE 5 ……今月のトピックス

PAGE 5 ……直管型LED、今年が「普及元年」

各管理項目の今月の状況

- 各項目の今月の監視測定結果詳報 -

PAGE 6 ……ECO検定

PAGE 7 ……各廃棄物(SSD / 本社)

PAGE 8 ……各廃棄物の割合(SSD / 本社)

PAGE 9 ……ペットボトルのキャップ(SSDG)
使用済み切手(SSDG)

PAGE 10 ……コピー用紙使用量(SSD / 本社・関西)

PAGE 11 ……電力使用量(SSD / 本社・関西)

PAGE 12 ……電力使用量(SKW / 朝日)(SFN)

PAGE 13 ……各部門の活動報告・提案

PAGE 13 ……コピー用紙使用量削減及び業務改善
(SSD1F / 財務経理部)

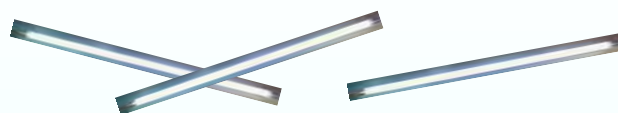
今月のトピックス

直管型LED、今年が「普及元年」

今夏の電力不足に備え、白熱電球などと比べて消費電力が少なく、寿命も長いLED(発光ダイオード)照明の需要が高まっています。

家庭では白熱電球からLED電球に切り替えが進んできた一方で、蛍光灯からの置き換えが期待される直管型LED照明は、普及が始まったばかりです。

普及に向けて業界団体が直管型LEDの統一規格を策定したが、低価格化など乗り越える課題は少なくないのが現状です。



直管型LEDランプの現在の相場は1本型で2万～3万円と高めだが、消費電力は蛍光灯の1/2程度、寿命は3倍以上の4万時間と省エネ効果が高く、オフィスや公共施設での置き換えが徐々に進みつつあります。

大手コンビニのLは、LED電球に続き、1月から直管型LEDも順次導入しており、4月末現在で約700店舗で直管型LEDを使っている。



直管型LEDを使用しています。



<大手コンビニL店舗内>

直管型LEDは、昨年10月に日本電球工業会によって統一の安全規格が初めて策定されました。規格策定によって、これまで発売を見合わせていた大手メーカーが相次いで同市場に参入し始めています。

日本電球工業会によると、LED電球の平均単価は2009年初めは約5000円だったのが、昨年後半には3000円前後まで下がりましたが、これに対し直管型LEDはまだ本格普及に至らないことから高価格のまま推移しています。

大手メーカーの相次ぐ参入で価格を押し下げる期待もあるが、規格策定によって蛍光灯の器具と互換性がなくなり、器具の設置工事が新たに伴うことが壁になっています。業界関係者は「震災後、取り付け業者も足りなくなっている」と供給サイドの人手不足も指摘しています。

メーカーの担当者は直管型LEDについて今年が「普及元年」と意気込んでいて、業務用中心の直管型LED市場拡大には、産業界全体が率先してLED化を推進する動きが求められそうです。



環境月報4月号で紹介した通り、LED照明にすることで従来の照明よりCO2排出量を削減でき、電力使用量も削減できます。現在サンシン電気(本社)でも、LED照明を導入することが決まっています。

(事務局)

5月10日から、次回エコ検定の申し込みが始まりました。
33期 環境月報発行時からエコ検定の過去問題を掲載してきましたが、皆さんどのくらい正解していますか？今回も過去問題を掲載しますので、ぜひチャレンジしてみてください！

エコ検定の申し込み期間、及び試験日は次の日程ですので、試験日の都合が合う方は、受験してみませんか。
この検定の受験料は会社負担しますので、申し込みの方は自己申請して下さい。

【試験要項】 2011年度 第10回ECO検定
試験日 : 7月24日(日)
申込登録期間 : 5月10日(火)～6月10日(金)
試験時間 : 13時30分～(制限時間2時間)
受験料 : 5,250円



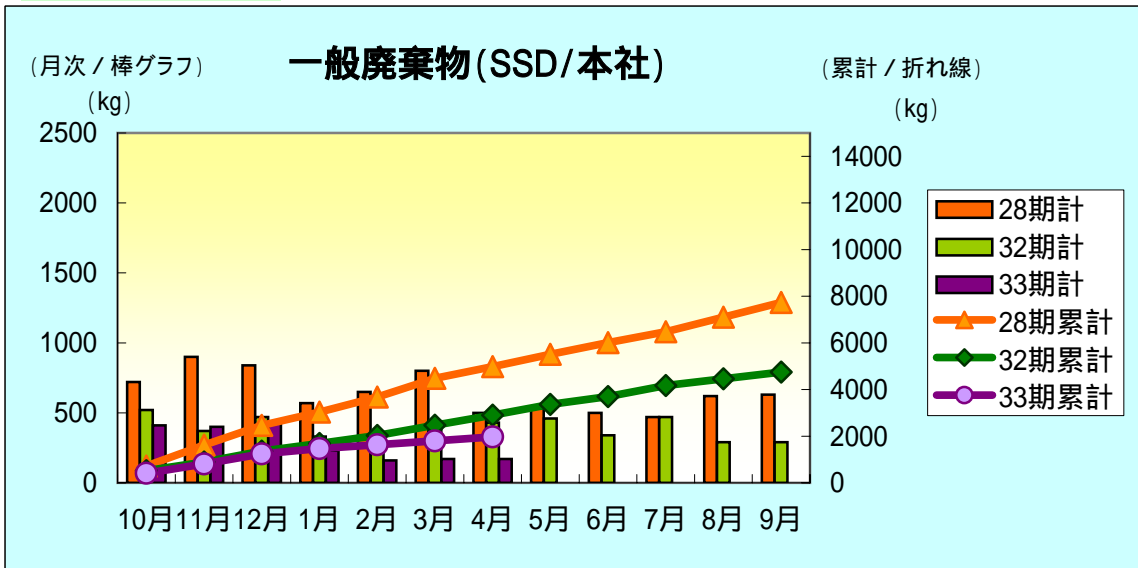
2009年度第7回(第1問)より出題

次の文章のうち、内容が正しいものには を、誤っているものには を選択して下さい。

- ア)「持続可能な開発のための教育(ESD)」とは、環境問題だけではなく、地球の人類社会の持続性にかかわる貧困・人口・ジェンダー・人権なども包含した総合的な教育のことである。
- イ)国連環境計画によって行われた「ミレニアム生態系評価」では、自然環境から受け取る自然の「恵み」を「生態系サービス」と呼んでいる。
- ウ)「環境基準」とは、人の健康を保護し、生活環境を保全するために維持されることが望ましい基準であり、政府は各種の施策を講じて、その確保に努めなければならない。
- エ)自分のお金を環境に配慮した企業に投資したいと考える投資家が提案する運動を「メセナ活動」という。
- オ)組織の環境マネジメントシステムがISO14001に適合しているかどうかの確認には、第三者である審査登録機関に確認してもらう方法と、自分で判定して適合していることを自己宣言する方法がある。
- カ)ヒートポンプは、発電すると同時に、廃熱を給湯や空調、蒸気などの形で有効に活用するシステムで、省エネ性に優れている。
- キ)世界遺産とは、現代に生きる全ての人々が共有し、未来の世代に引き継いでいくべき文化財や自然環境のことで、「文化遺産」、「自然遺産」、「複合遺産」に分類されている。
- ク)燃料電池はメタンガスを大気中の水素と化学的に反応させることによって、直接電気を発生させる装置である。

解答は、次のページ下にあります。 皆さん、わかりましたか？！

SSD(本社)

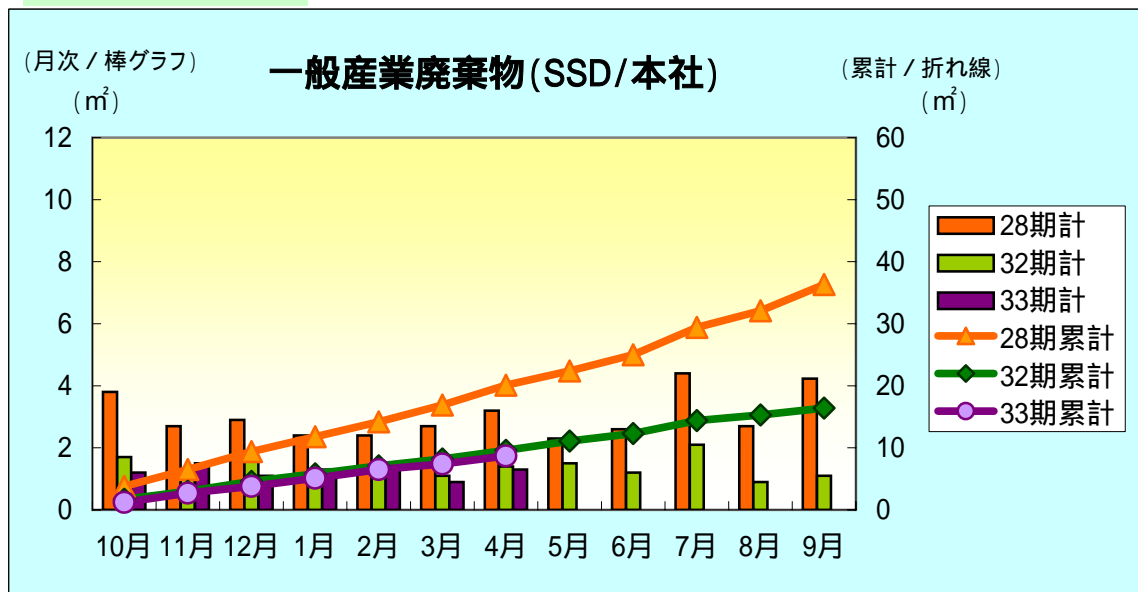


考察:

順調に廃棄量が削減しています。

事務局

SSD(本社)



考察:

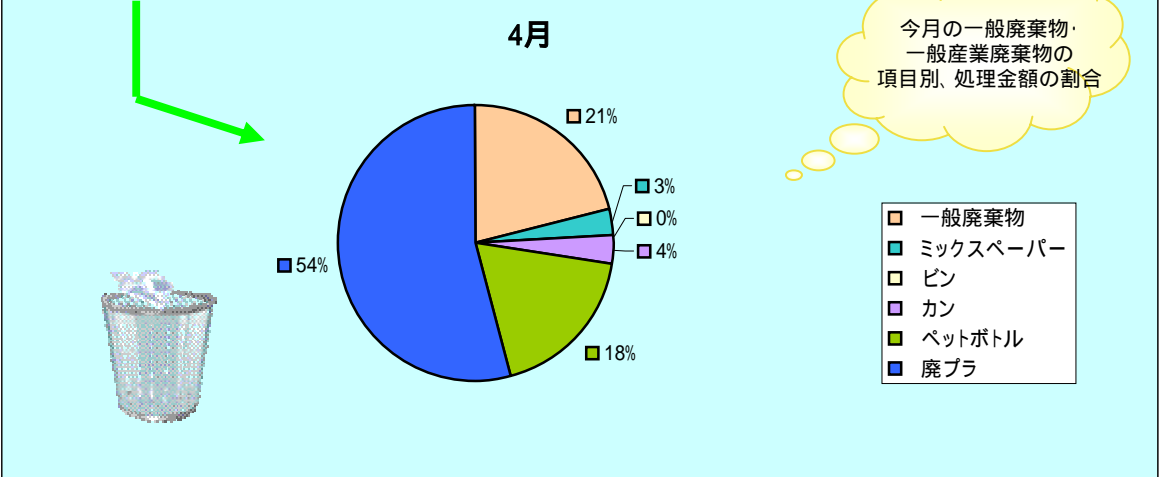
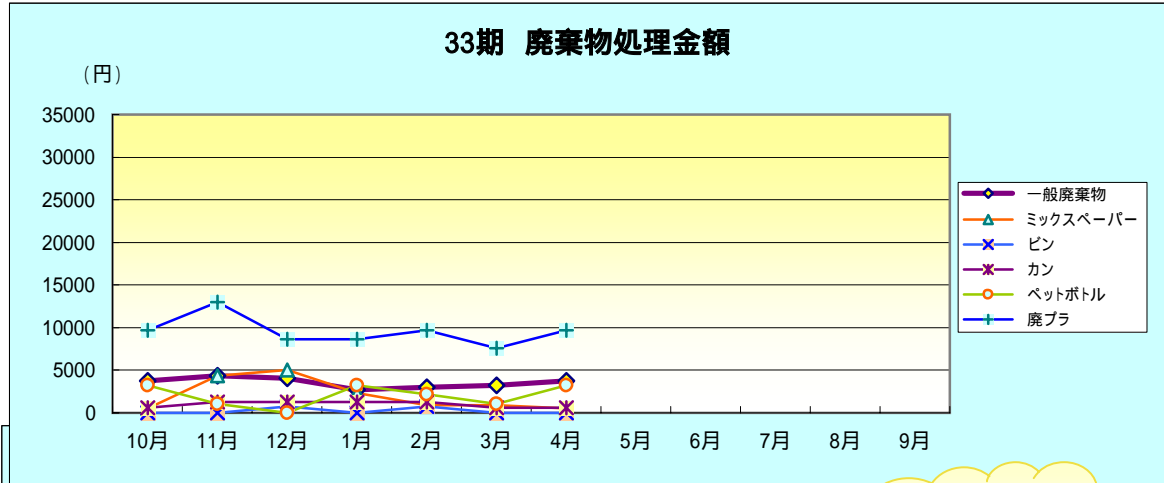
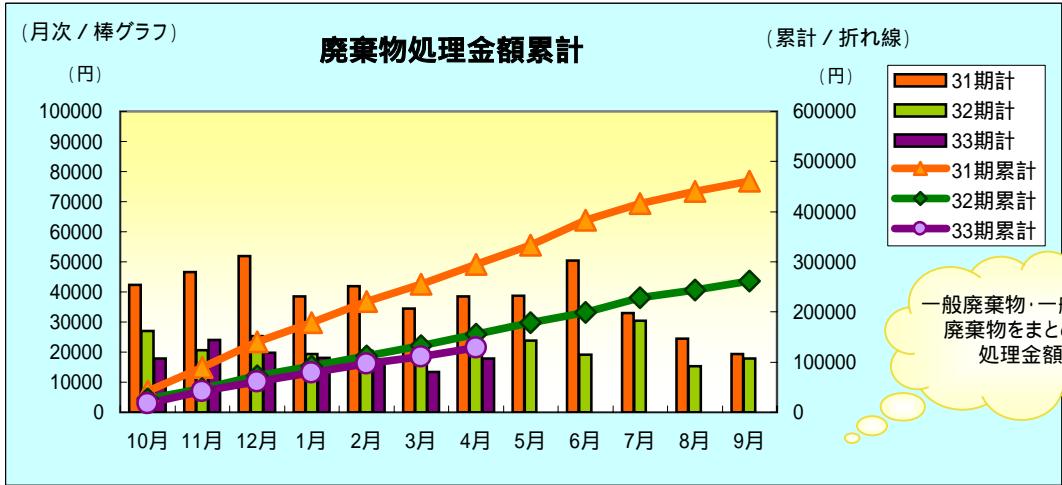
継続して監視測定中です。

事務局

[2009年度第7回(第1問)解答]

ア) イ) ウ) エ) オ) カ) キ) ク)

SSD(本社)



考察:

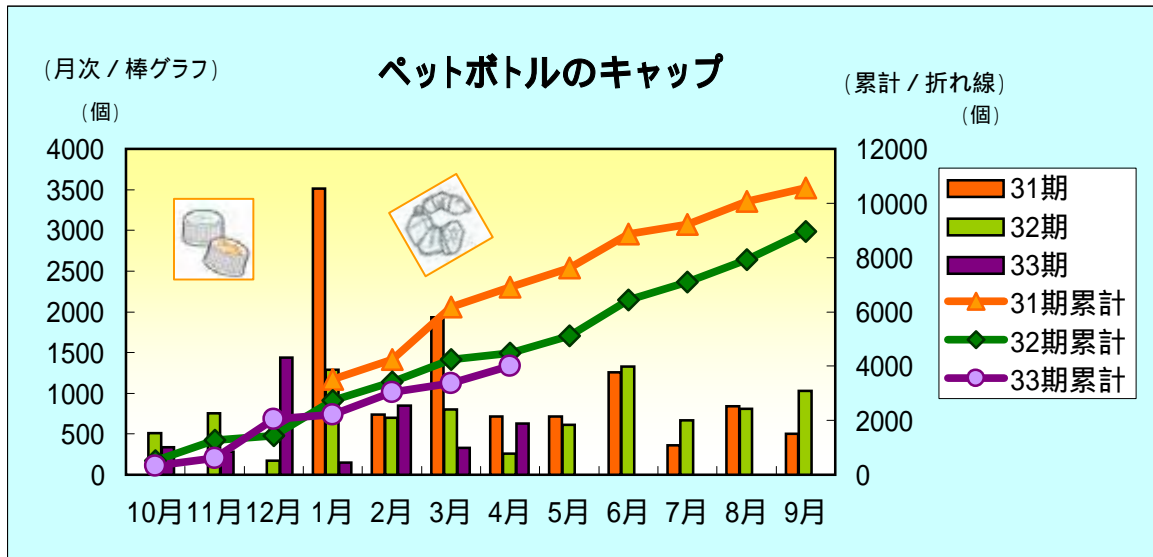
ペットボトルの廃棄量が増加しています。
マイボトルを持ってくるようにすることで、ペットボトルなどの廃棄を削減できます。
私事ですが時々マイボトルを持参しています、必要な時に飲むことができ便利ですよ
(=´-`)/ 事務局

全社活動項目 (Part-4/7)

ペットボトルのキャップ

SSDグループ全社

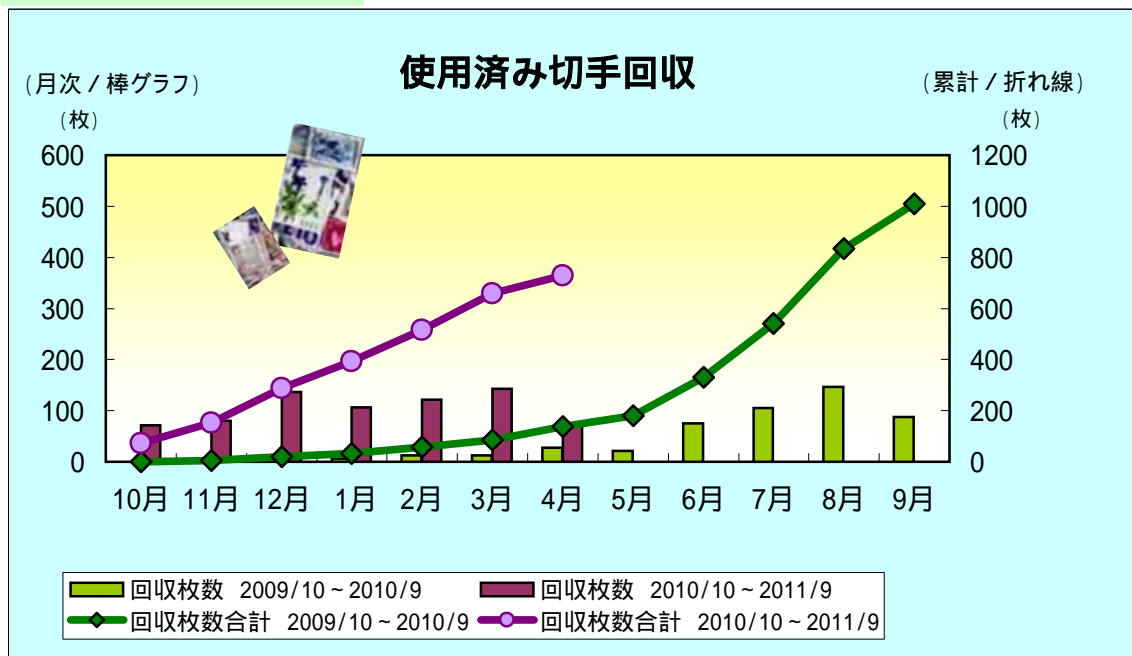
換金率: PETボトルキャップ
400個(約1kg) = 10円



考察:

いつもペットボトルのキャップ回収に協力して頂き、ありがとうございます
(事務局)

SSDグループ全社

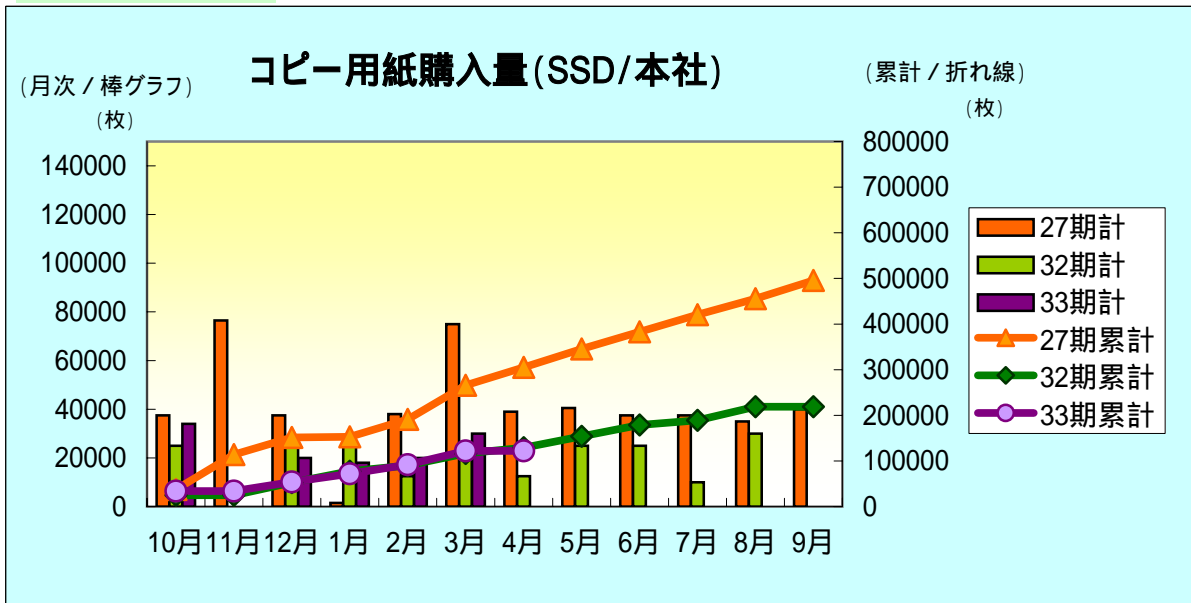


考察:

順調に使用済み切手が集まっています。

(事務局)

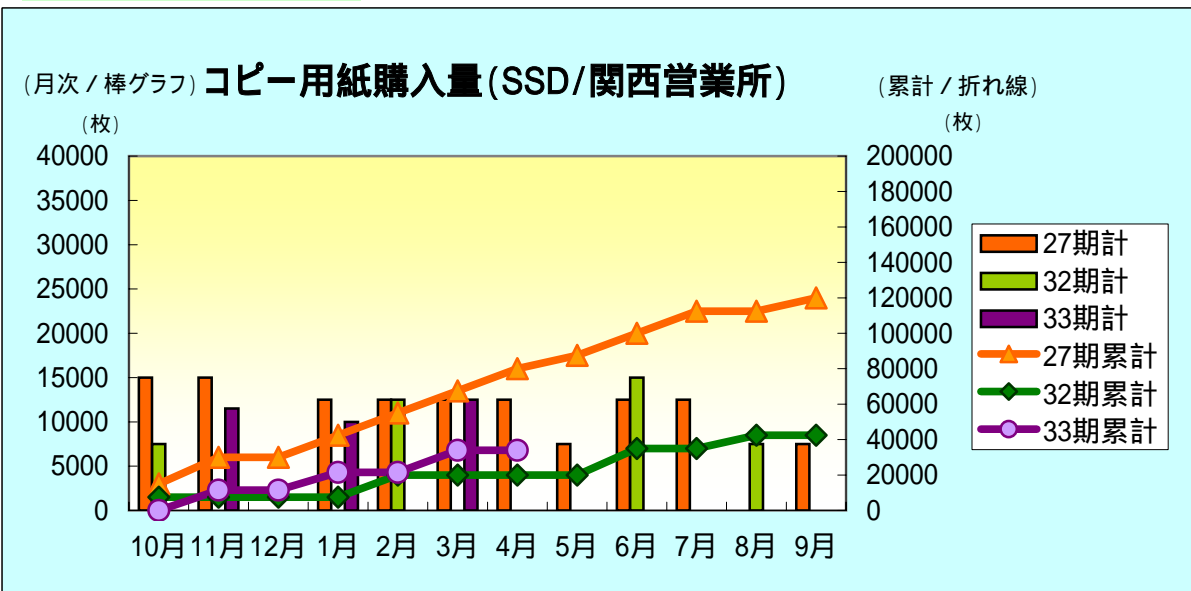
SSD(本社)



考察:

33期コピー用紙購入量の累計数が、32期とほぼ同じ位になっています。
(事務局)

SSD(関西営業所)

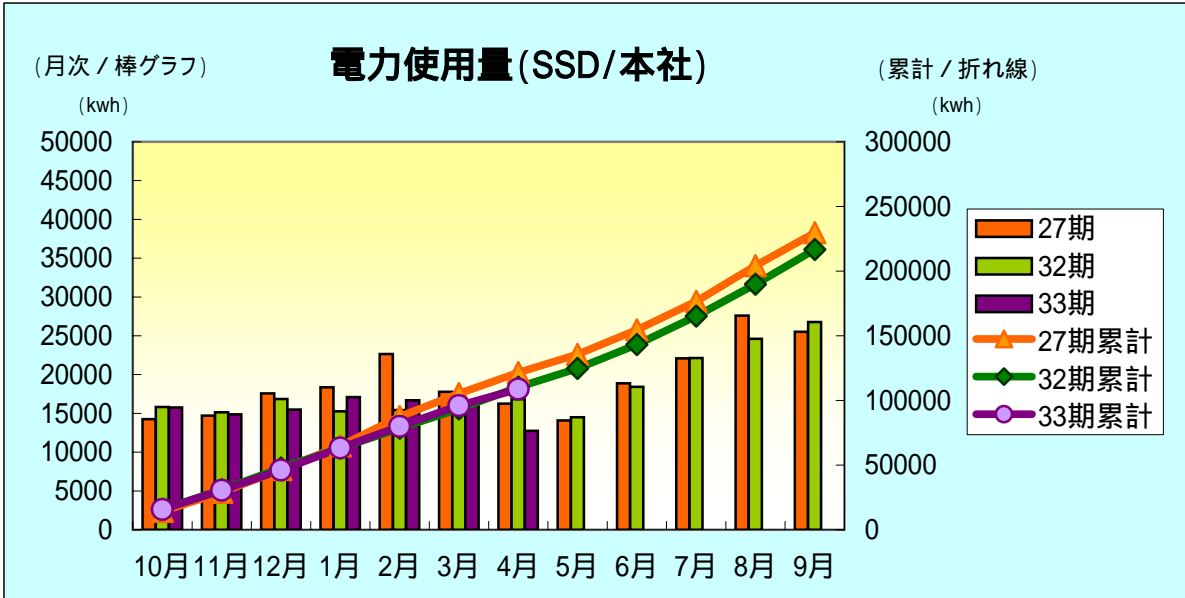


考察:

32期よりも33期の方がコピー用紙の購入量が増加した原因は、人員増加によるものでした。

(事務局)

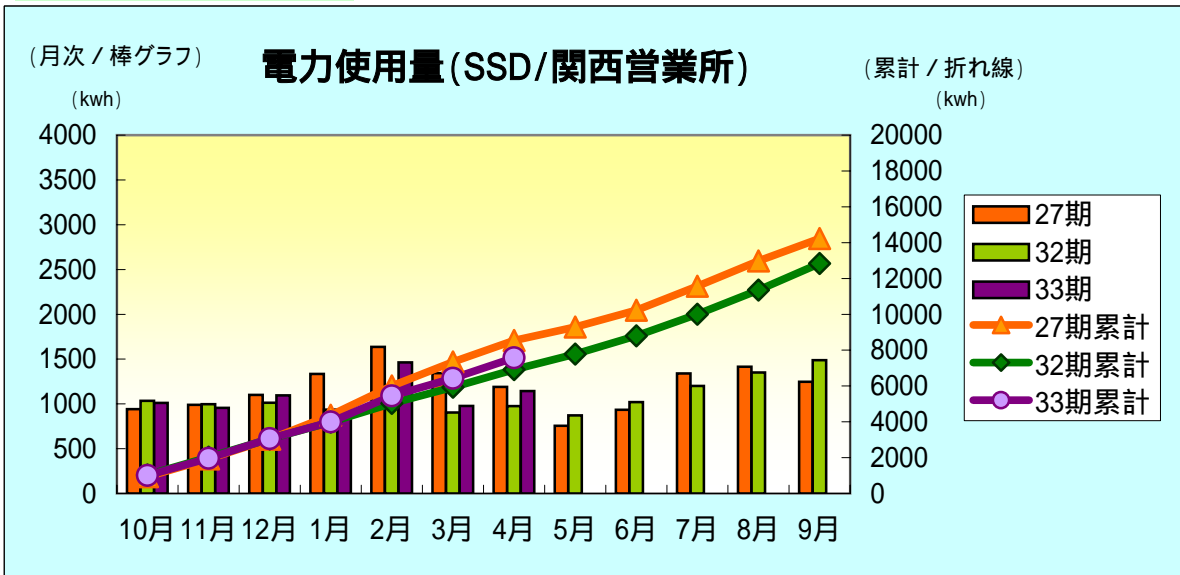
SSD (本社)



考察:

震災後の節電効果が早くも表れて来ています。
(事務局)

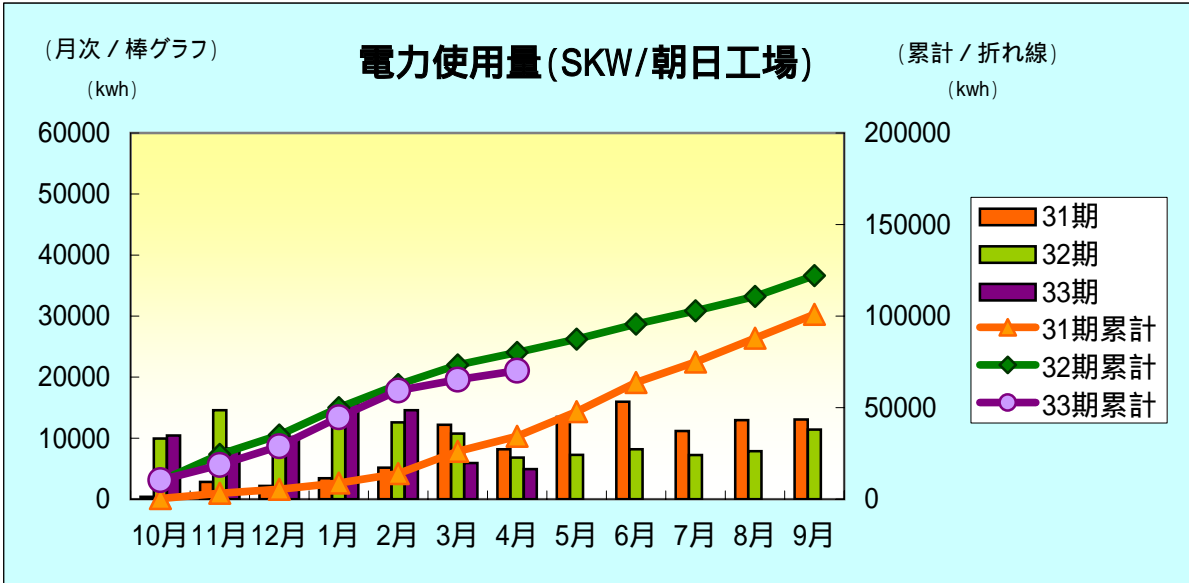
SSD (関西営業所)



考察:

継続して監視測定中
(事務局)

SKW(朝日工場)

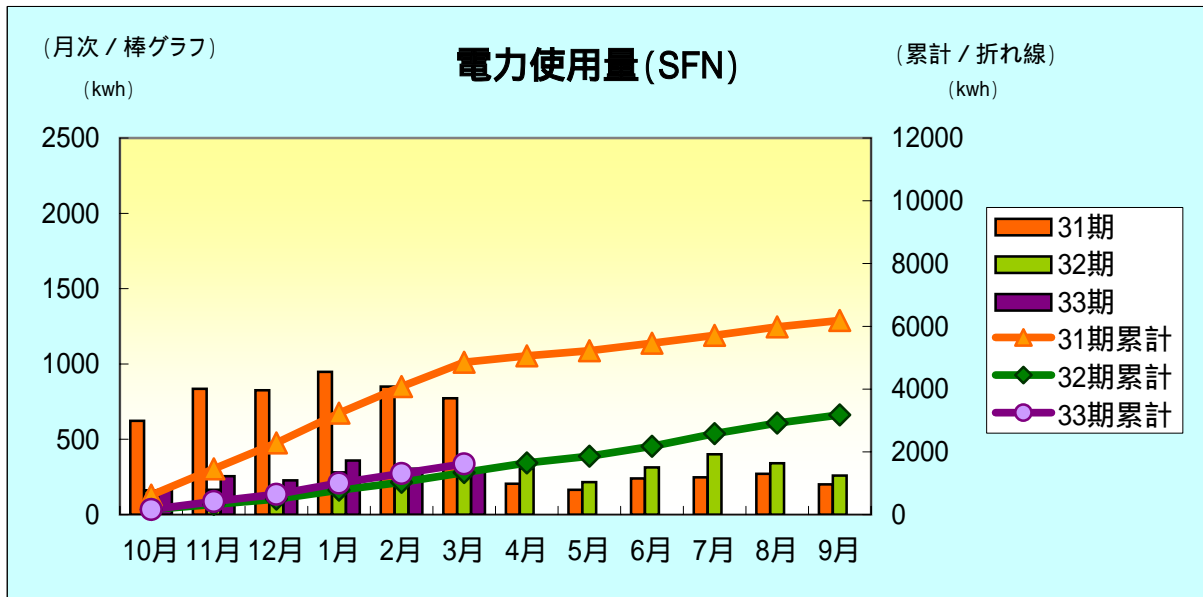


考察:

朝日工場での量産がなくなり、それともない機械の稼働時間が減少し、電力使用量が減少しております。

(事務局)

SFN



考察:

継続監視測定中

(事務局)

コピー用紙使用量削減及び業務改善

サンシン電気(本社1F)財務経理部では積極的にコピー用紙使用量の削減に取り組んでおり、またサンシン電気情報システムの協力の下で業務改善も進めておりますので、この2点について紹介したいと思います。

1、コピー用紙使用量、削減内容

積極的裏紙利用・・・重要な会計資料等を除いて、部内用保存資料は裏紙を優先的に利用している。
縮小(Nアップ)・両面印刷の活用・・・保存資料で特に枚数の多いものは、縮小(Nアップ)及び両面印刷機能を活用している。

<活用事例>

・「仕入先元帳」・・・2010年9月分より1/2縮小(2アップ)及び両面印刷を利用することで、**月平均72%削減**。
印刷枚数:2009年10月～2010年3月平均 126枚/月 2010年10月～2011年3月平均 35枚/月

PDFデータ保存の活用・・・利用頻度の低い帳票については、PDFデータ保存とし印刷はしない。
(印刷は必要時必要箇所のみ)

<活用事例>

・「得意先元帳」「商品元帳」「棚卸差異表」・・・31期以降印刷せず。(30期実績 1700枚/月)

帳票発送をFAX送信又はデータメール添付送信に変更

<活用事例>

・「支払通知書」・・・2011年1月より変更し、月平均30枚程度のコピー用紙削減となる。



2、経理業務改善

領収書作成システム

2009年10月より導入し、領収書作成を手書きから自動システム化したことで、**作業時間を約50%削減した**。

新小払精算システム

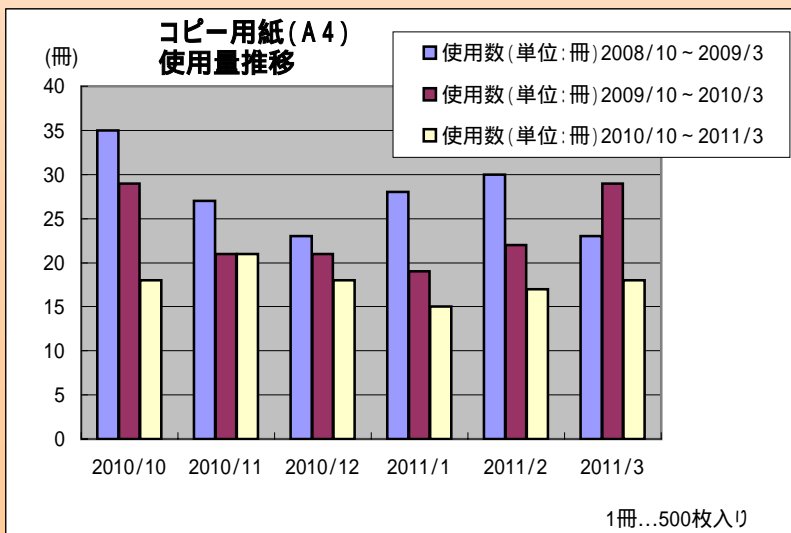
2010年6月より導入し、小払精算の科目別費用集計を自動化したことで、**作業効率を50%以上改善した**。

入出金データ伝票自動起票化(現在システム作成中)

銀行の入出金データを基に会計伝票の自動作成を行なう。(作業効率50%以上の改善が見込める)

買掛金支払い業務を検収明細方式に変更(現在検討中)

現在検討中の案件であり、導入にはお取引様及び関係部門の協力が必要となるが、導入された場合には50%以上の作業効率の改善が見込まれる。



本社1F部門(営業・CS・財務経理)では、今期の環境目標の一つにコピー用紙の削減(31期比50%)を掲げておりますが、当上期実績値では対31期比64.5%に止まっていますので、下期は更なる削減努力が必要となっております。(左図参照)



コピー用紙の使用量を削減するため、サンシン電気では自動化システム導入するなど、改善を図っており、その効果が表れています。

(事務局)